

函南町 函南さくら保育園 園長 遠藤 弥生

今回の訪問先は、伊豆半島の入り口に位置する函南さくら保育園です。保育園の周辺は田畑が広がり、目の前の水路にはドジョウやタニシなど生き物がたくさん見られるそうです。自然環



境に恵まれた函南さくら保育園は、昭和五十六年四月に開園し、本年で三十五年を迎えました。現在は定員百五十名、地域子育て支援セ

ンター、健康支援一時事業等を行っています。はじめに午前の活動を見せていただきました。○歳児は綿棒を小さな穴やスリットのあった缶に入れる活動、一歳児はカニの形の厚紙に脚に見立てた洗濯ばさみを付けています。みんな落ち着いて静かに机に向かっています。他の保育室にお邪魔しても、こちらを向いて、大きな声で挨拶をして迎えてくれました。どのクラスの子どもたちも明るくて元

気なのですが、それだけではなくて、大変落ち着いた、穏やかな印象をうけました。

遠藤弥生園長先生にお話を伺うと、もともと脳科学の研究をされていた遠藤園長先生が乳幼児期における教育の大切さを痛感されて、子どもたちには健康であることはもちろん、人としての喜びや幸せを十分に感じられるようになってほしいとの思いから、現在の保育園を始められたそうです。そして、脳科学者の澤口俊之教授と出会い、H・Q（人間性知能）と脳のはたらき（ワーキングメモリ）を高めるSAKURA・H・Q教育メソッドを確立され、日常の保育に取り入れているそうです。



子どもたちの物事に対する興味や取り組みに対する意欲、集中力の高まりなど、成長を実感しているとの事でした。

また、園庭は主に運動を行う運動場、滑り台やジャングルジムなどの遊具がある遊びの広場、自然と触れ合うビオトープに分かれています。ビオトープは子ども達が日本の原風景に触れる、動植物などの自然に親しむことを目的とし、平成十七年三月に完成しました。セリやナズナといった春の七草やハギ・キキョウなどの秋の七草が育ち、多くの種類のトンボやバッタ、土ガエル・トノサマガエルなども生息しているそうです。

平成二十年には「全国学校ビオトープコンクール2007」でユニークな学習活動を行っているとして、ドイツ大使館賞を受賞されたとのこと。取材当日は冬枯れのために花々や生き物達を見ることができなかつたのが心残りでした。暖かくなったらぜひもう一度見学させていただきたいと思います。

今回、生活発表会前の大変お忙しい中を、快く取材に応じてくださった遠藤園長先生をはじめ職員の皆様、本当にありがとうございます。



園庭は主に運動を行う運動場、滑り台やジャングルジムなどの遊具がある遊びの広場、自然と触れ合うビオトープに分かれています。ビオトープは子ども達が日本の原風景に触れる、動植物などの自然に親しむことを目的とし、平成十七年三月に完成しました。セリやナズナといった春の七草やハギ・キキョウなどの秋の七草が育ち、多くの種類のトンボやバッタ、土ガエル・トノサマガエルなども生息しているそうです。